

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的
☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです。あなたも一緒に

◆1月の発行は、1日号、17日号、24日号です。

今週の紙面

2・3面 対談/声明
4・5面 新婦人活動/読者の作品
6面 NY現地レポート/母の歴史
7面 性搾取のない社会を
8面 気候危機/まんが
9面 インタビュー/文化
10面 パズル/工作
11面 映画



札幌市 田村傳子

2026年新春

能登半島地震から2年

ここで生き続ける

石川・珠洲市 野萱草班

生粋の珠洲生まれの井上さん



SNSで入会した椿原さん



原発反対の運動の中心にいた塚本さん



元教員の広山さん



珠洲に群生する野萱草。黄色い花を咲かせる

班名の名付け親の角口さん

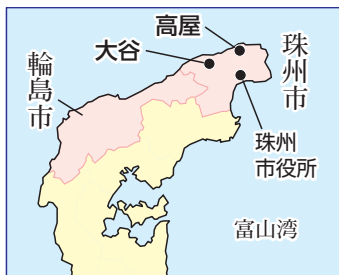


2024年1月1日の能登半島地震と9月の豪雨災害で大きな被害を受けた石川・珠洲市。「この地に根を張り、生きていこう」と珠洲で初めて結成された、新婦人の班「野萱草(のかんそう)班」の班会を訪ねました。

高屋町から見える外浦の海



「地震のときは、ここにみんなのおせちを持ち寄って避難したの」



珠洲市街地をさらに北へ

能登半島の先端、珠洲市は金沢市から車で約3時間。珠洲市街地から復旧作業がいまなお続く大谷峠を越え、曲がりくねった道を海岸線に沿って北上すると、水平線まで見渡せる高屋町の海が見えてきます。

訪問したのは2回目の班会。会場は、高屋漁港がすぐ目の前の集会所です。店の入り口に『しばらくお待ちください』って札かけて来たんや。行列ができてくるかもしれん」と笑う井上明美さんは、能登半島で「最北端」の個人商店を営んでいます。生粋の珠洲生まれで、植物が大好き。「能登の山を歩くんよ。この辺は春になるとシヤクの花でいっぱいになる」と山菜や花の話で盛り上がります。

5人の班員のうち3人は、今も高屋町と大谷町の仮設住宅暮らし。車のある人が会員宅を巡って乗り合わせてきました。「仮設は8畳くらいの広さ。夫と2人だから狭くて、造りも悪くてね。でもそれしかないのね」と話すのは班長の塚本詠子さん。地震で建物の下敷きになり、歩くのに2本の杖が欠かせません。北海道から移住してきて「50年も住んで、こんなことが起こるなんて思わなかった」と言いながら、「夜は窓から見える月や星がきれい」と、風土とともに暮らす豊かさ、土地への思いにあふれています。

故郷に新婦人を

地震直後から支援に奔走してきた石川県本部。新婦人の支部がある隣の輪島市からは具体的な要求が届く一方で、珠洲の状況はなかなかつかめませんでした。高屋町出身で石川県本部副会長の近松美喜子さんは、珠洲に足しげく通いながら、「故郷に新婦人の班があったら、もっと迅速に支援の手が届いたのでは」と思いを募らせてきました。

〈4面へ〉

